

『実務教育学研究』投稿前チェックリスト

- 原稿の投稿者は日本実務教育学会会員で、投稿時点でその年度の年会費を納入済である。
- 共同執筆者も全員日本実務教育学会会員で、投稿時点でその年度の年会費を納入済である（非会員は投稿できない）。
- 研究論文及びレビュー論文は 15 頁以内、研究ノート及び実践報告は 10 頁以内、書評は 5 頁以内で作成されている（投稿区分毎の原稿の分量を守っている）。
- 投稿者がわかる情報（氏名、所属・勤務先、謝辞等、英文も含む）は入れず、後で挿入するためのスペースを確保している。
- 図表が含まれる場合は、その作成したデータ（各データ形式のまま）に過不足がない。
- 日本語のキーワード 5～7 語が付されている。
- 「和文抄録」は 600 字以内になっている。
- 英文抄録（英文タイトル、**key words** を含む）は、ネイティブ・チェックもしくはそれに準ずるチェックをしてもらった（英文抄録も審査対象である）。
- 「英文抄録」は、「研究論文」・「研究レビュー論文」で **300 words** 以内、「研究ノート」・「実践報告」で **150 words** 以内になっている。
- 見出しを含むすべての文字は 10～11 ポイントで記載されている。
- 和文は全角文字、欧文および算用数字は半角文字で入力している。
- 数字は原則として算用数字を用いている。
- 一貫性のあるかなづかいをしている。
- 論文のタイトルは簡潔なものになっている。
- 見出しと小見出しは正しく番号がふられている。

- 論文中で言及した研究者名は、初出時にはフルネームになっている（名前の一部を頭文字等で省略記載することも可）。
- 外国人名がある場合、表記方法を一貫させている。
- 難読の地名・人名などには、初出時にふりがなをつけている。
- 引用文に書き写し間違いがないか、入念に原典と照らしあわせた。
- 記号は正しく使っている。
- 句読点は全角の「、」と全角の「。」で統一されている。
- 本文中の注番号と原稿の末尾の注が対応している。
- 文献を示す割注は正しく記載されている。
- 文献リストはアルファベット順になっている。
- 文献の記載に間違いがないか、原典の奥付等で再確認した。
- 図（写真）及び表は、本文中の適切な箇所にレイアウトして作成した。
- 図（写真）及び表には、それぞれ通し番号を付している。なお、図（写真）及び表が1つの場合にも、図1または表1と記している。
- 図（写真）は、300dpi以上の解像度でPDF形式で作成した。
- 図（写真）のデータを投稿原稿とともにメールに添付した。
- 投稿原稿は、他の学術雑誌等ですでに公表されたもの、あるいは他の学術雑誌等に投稿中のものではない。
- 投稿原稿は、すでに公表された原稿に一部のデータや事例を加えただけ、あるいは一部を改編しただけのものではない。
- データの捏造、改竄を行っていない。

- 他の著作物から引用する場合は、出典を明記し、剽窃とならないよう注意している。
- 個人情報は適切に保護している。
- 投稿原稿の内容に、特定の機関・部局等に関する秘匿・保護すべき情報が含まれている場合には、投稿の際に当該機関・部局等の許諾を得ている。
- 本学会の「倫理規定」に則った調査研究にもとづいた原稿となっている。